**最近の活動の状況**

**◇電話相談◇**

子どもの虐待防止ホットライン　2016年9月1日～12月10日現在　電話相談結果報告

（速報値）

①総受信件数　281　件

＜内訳＞

1）相談者性別・年代

| | 10代 | 20代 | 30代 | 40代 | 50代 | 60代 | 不明 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 女性 | 6 | 16 | 36 | 122 | 11 | 13 | 40 | 244 |
| 男性 | 0 | 2 | 12 | 5 | 0 | 0 | 13 | 32 |

性別不明　5件

2）利用回数

| 初回 | 継続 | 不明 |
|---|---|---|
| 172 | 107 | 2 |

3）相談時間

| ～9 | ～19 | ～29 | ～39 | ～49 | ～59 | 60分以上 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 43 | 29 | 38 | 37 | 20 | 26 | 88 |

4）被虐待経験の有無

| あり | なし | 不明 |
|---|---|---|
| 160 | 17 | 104 |

② 内容別件数

| | |
|---|---|
| 虐待（含む危惧） | 27 |
| 18歳以上の虐待 | 108 |
| 育児不安 | 32 |
| マスコミ・問合せ | 12 |
| その他の相談 | 92 |
| 無言・ノイズ | 10 |
| 妊娠・出産 | 0 |

＊虐待の型＊

| 身体的 | 心理的 | ネグレクト | 性的 | 不明 |
|---|---|---|---|---|
| 23 | 74 | 3 | 5 | 1 |

## 編　集　後　記

あけましておめでとうございます。本号では、昨年のCAPNAの市民講座を振り返ると共に、CAPNAを支える方々の活動に焦点を当ててみました。この地域でもいじめや子どもが親の自殺に巻き込まれるなどの事件が報道されました。

子どもをめぐる痛ましい出来事が少しでもなくなるよう皆さまと共に祈るばかりです。

（萬屋育子・小出砂恵子）

発　行　NPO法人 CAPNA

事務局　〒460-0002 名古屋市中区丸の内 1-4-4-404

# CAPNA ニューズレター

2017年1月発行 87号

## 謹賀新年　本年も引き続き皆さまのご支援をお願いします

## ★CAPNAは2016年2回の市民講座を開きました！

《第1弾》10月15日（土）電気文化会館5Fイベントホールにて

### 「ディスレクシア（読み書き障がい）～困難こそがハートをはぐくむ～」

会場での一場面

元CAPNA理事長・前名古屋市副市長の岩城正光さんをコーディネーターに、シンポジウムを開きました。

シンポジストには、NPO法人EDGE代表の藤堂栄子さん、岐阜市立岐阜特別支援学校教諭の神山忠さん、NPO法人子ども支援室カシオペアの中久木俊之さん、当事者で大学生の本庶暁さんの4人をお招きし、それぞれのお立場からディスレクシア（読み書き障がい）について語っていただきました。ご自身の苦しい体験もお聴きすることができ、障害への不認知と無理解がいかに当事者を苦しめるかということをまのあたりにしました。発達障害の正しい診断と適切な対応が、子どものいじめや虐待の予防につながるという側面から、たいへん意義深い時間を過ごすことができました。また、同じ階にあるギャラリーでは、ディスレクシアの画家マッケンジー・ソープ氏の絵画展を企画し、たくさんの方々にご来場いただくことができました。

《第2弾》11月19日（土）イーブルなごや3Fホールにて

### 「赤ちゃん縁組～家族のかたちをかんがえる～」

シンポジストとして、中京テレビ報道局チーフディレクターの安川克己さん、NPO法人Babyぽけっと代表の岡田卓子さん、福井県里親会会長の西畑宏子さん、そして我々CAPNAを創立以来支え続ける、元愛知県児童相談所児童福祉司の矢満田篤二さんの4人をお迎えし、CAPNA理事長の萬屋育子さんをコーディネーターに、シンポジウムを開きました。

2017年4月1日施行の改正児童福祉法にも盛り込まれた里親・養子縁組の推進をふまえ、0歳0ヶ月0日の虐待防止のための「新生児特別養子縁組」（赤ちゃん縁組）の今までとこれからについて、4人のシンポジストからそれぞれの立場で、これまで取り組んできたことと、これからの取り組みに求められることについて、熱い思いを語っていただきました。会場には特別養子縁組で家族になった方々もいらっしゃり、改めて家族の絆について考えさせられた一日でした。

# 未受診・飛び込み出産、０か月０日目の虐待死防止のために

## ～～　予期しない妊娠相談への対応と今後の取り組み～～

CAPNA 理事　松岡典子
NPO 法人 MC サポートセンターみっくみえ代表
全国妊娠 SOS ネットワーク理事

### *対象者の背景*

子ども虐待による死亡事例等の検証結果第 12 次報告は次のように述べている。

① 死亡事例の主たる加害者は実母が 63.6%と最も多い。

② その実母の抱える問題（複数回答）では、予期せぬ妊娠/望まない妊娠が 54.5%、母子手帳未発行 29.5%、妊婦健診未受診率 40.9%、さらには若年という問題がみられる。

③ 死亡した児は、例年同様に０歳児の占める割合が最も多いが、特に本報告では、６割が０歳児であったことは特筆すべき点といえる。そのうち０日０か月児（実際はすべてが０日目の死亡）は 55.6%で、数にすると 15 名のあかちゃんが生まれたその日に殺されている。

④ さらにこの０日目の虐待死事例は、加害者である実母はその親と同居していた。

以上のことから、親、家族と同居しているにもかかわらず妊娠について家族が気が付かなかいことや、妊娠している女性が家族には相談しない状況が垣間見える。また、０日０か月の虐待死ケースのほとんどが行政機関と関与がないことからも妊娠した女性は『妊娠』を誰にも知られたくない、知られてはまずい状況に置かれているといえる。『妊娠』について誰かに『相談』しない、できないのである。

### *妊娠葛藤にかかる相談の必要性*

予期しない妊娠/望まない妊娠により葛藤している女性たちの背景として、未婚、若年（学生）、貧困、婚外子、性暴力など多様な背景を抱えている。中でも、０日目０か月児の虐待事例に至ってしまう背景はまさに、その状況を放置していた、若しくは放置したいわけではないが、放置するしかなかったという状況があったと推察される。

予期しない妊娠の状況でも相談することができれば、その後支援につながり結果として０日目の虐待防止でき、妊婦が安全に出産することにもつながる。ここに「妊娠 SOS 相談」の重要な役割がある。相談できない、しづらい人にどうやって歩み寄るのか、相談してきた人をどう支援するかは重要な視点である。

改めて申し上げたいが、予期しない妊娠（妊娠葛藤）すべてが問題であるということではない。私は相談員の対応によって「予期しない、あるいは望まない妊娠」を「望んだ出産」にすることは可能ではないかと考えている。どうしても育てられないという親への支援として「特別養子縁組制度」へ繋ぐことも、親への支援と同時に生まれてくる子どもたちの育ちの保障もできると考える。

2017年1月発行　No.87

### 電話相談員だより

「キャプナ
ホットラインです」

CAPNA の電話相談では、子どもの頃に親から虐待されたことが原因で、大人になった今なお生きづらさを抱えているという利用者さんからの相談が多くあります。このような利用者さんの話を聴くたびに、虐待が人の人生を長きにわたって支配するのだということを痛感します。利用者さんにとっては「終わったこと」ではないのです。私たちはただただ利用者さんのつらい気持ちに寄り添い、お話を聴くことしかできませんが、電話の向こうの利用者さんの未来を信じ、その幸せを願うばかりです。　土曜グループ　K

### 今後の活動

１月１９日（木）２０日（金）　赤ちゃん縁組伝達講習会（福岡）
１月２３日（月）　名古屋市児童虐待防止研修会
「子どもを取り巻く現代の家庭環境について」
講　師　犬飼敦雄氏（弁護士）
今津孝次郎氏（大学教授）
杉山　春氏（作家・社会福祉士）
１月２４日（火）高浜市委託事業　事例検討「小学校の事例」　講師　山田麻紗子氏
２月　５日（日）CAPNA 電話相談員必須研修（申込必須）

※詳細を知りたい方は事務局まで

*【お知らせ】*

CAPNA では、会員の方々に向けてボランティア登録制を開始いたします。
ボランティア登録された会員の方には、CAPNA が行うイベント等詳細をお知らせし、ご都合が合えばボランティアスタッフとして活動していただくというものです。交通費は支給いたします。
ボランティア登録を希望される会員の方は事務局までご一報いただけますよう、よろしくお願い致します。

（新規入会者）仲川こずゑ（賛助会員）　福井県里親会（賛助会員）
明田篤（正会員）　後藤明良（正会員）宮嶋貴美子（正会員）

**寄付者一覧　（H28.10～12月）**

池谷涼子　くまの会　アトリエるな　正司園美智代　矢満田篤二　柴田美智子
名古屋のマイケルファン(MJ FANs In NAGOYA)　立正佼成会　曽根富美子
競朗子　ACCJ/NIS　萬屋育子　兼田智彦　松岡典子　井上光子　市民講座募金箱
ゑびす祭り募金箱　稲沢福祉祭り募金箱　匿名寄附８件　（敬称略　順不同）

でも、いつまでも自分がこの後部座席の立場にいるとは限らない。いつの日か、診察室でこどもの病気の相談を受けた日に、その保護者のスマホが診断までの経路を音声で読み上げだすかもしれない。「こういう症状だとまず検査はこういうものをやり、その結果、こういう診断が考えられます。陰性だったら次はこういう検査をしましょう。診断までの時間は早くて５分、遅い場合でも３０分でしょう。お近くの大学病院へはこの経路が便利でしょう・・・・。」

### 人事が万事・・・

午前の診察が終わった後、スタッフが在庫の確認に走る。インフルエンザキットはあといくつあるか、予防接種のワクチンはどうか（停電になったら在庫は使い物にならなくなるが、その補償は自己責任だから、極力ぎりぎりにしておきたい。在庫抱えて電気が切れたら、冷蔵庫は・・・・。考えただけで恐ろしい）、院内薬剤は足りているか、消毒液は、スリッパは・・・。トヨタ看板方式を敷いているから、ある時点でオーダーがどのスタッフでもできるようになってはいるものの、よく確認したら在庫が１００個出てきたり、あるはずのものがなかったり、診療の幕間はスタッフも大忙し。

そうそう、急に子どもが熱を出せばスタッフがお休みしたりするからその補充も幕間の仕事。さらに、喜ばしいことだが、この診療所、お産の神様かコウノトリが守ってくれているのか、もうすぐ産休よ！というスタッフが今も二人いる。産休や育休の間の人材確保。帰ってきたときの託児の充実。４月から病児保育をしませんか？と市の担当者。女性の圧倒的に多い職場だが、人手不足解消は育児支援しかないなんてどこかの政府がやっていることはもう１０年前から始めてる。しかし、本当に幕間は忙しい。

今ではプッシュボタンを押すと、翌日にアマゾンがその消耗品を宅配してくれるサービスがあるとか。人事を人工知能に任せるわけにはいかないけれど、さて、今のような人力で（自転車操業のようだ）どこまで安定した経営ができるのか。幕間にナビが欲しいのは、もしかしたら院長なのかもしれない。

高橋昌久さんの記事は次号に続きます。
お楽しみに！

メール相談については、HPから「メール相談」のフォームにそって相談ください。
また携帯からもご利用いただけます。

◇2016年度メール相談事業◇
（12月1日　現在　速報値）

| 月 | 受信件数 |
|---|---|
| 9月 | 135件 |
| 10月 | 112件 |
| 11月 | 87件 |
| 合計 | 334件 |

◇２０１６年度シェルター事業◇

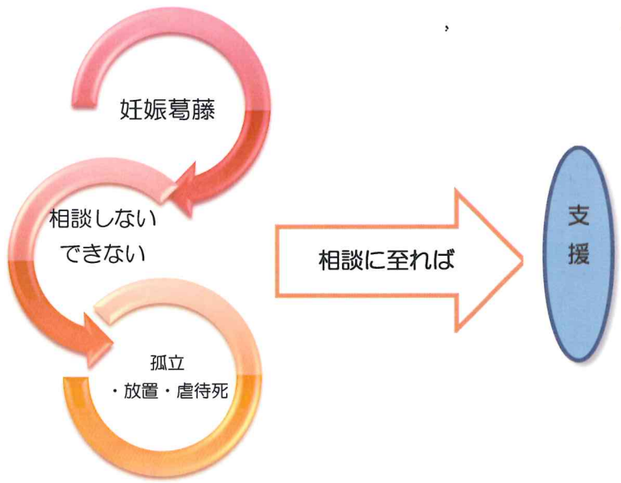
| | 受付先 | 経路 | 利用者 | 内容 | 判断 | 支援 | 支援結果 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 9月 | 事務局 | 機関 | ５７歳女性 | DVケース | 該当 | 利用 | ２２日間 |
| 10月 | 事務局 | 機関 | ３０歳代母と子 | DVケース | 該当 | 利用せず | 使用中 |
| 11月 | 事務局 | 機関 | 母、１５歳男・７歳男（１７歳女入院） | DV・虐待ケース | 該当 | 利用 | １７日間 |
| 12月 | 事務局 | 機関 | 24歳女性 | DVケース | 該当 | 利用 | 45日間 |

2017年1月発行　No.87

### これからの取り組み

昨年立ち上がった『全国妊娠SOSネットワーク（全妊ネット）』は「予期しない、あるいは望まない妊娠」で葛藤している問題に対応すべく、全国の妊娠相談窓口間の連携と相談対応のボトムアップ、政策提言等を行っている。
一方で国は、児童福祉法改正により、平成29年4月から子育て世代包括支援センターの設置も義務づけ、妊娠期から子育て期の切れ目のない支援を提供しようとしている。しかしこれらの支援を受けるには、妊娠届・母子健康手帳交付がスタートになるのだが、前述するケースなどは、母子健康手帳交付に至らず、そもそも国の施策、切れ目のない支援に乗れない層であると言える。実はこの層が結果としてもっともニーズが高い妊婦たちである。

全妊ネットは相談対象者や公的機関と繋がりにくい若者向けに少しでも歩み寄れるようなホームページを作成した。また妊娠葛藤から相談行動に至るような、わかりやすい動画を作成もした。
HP　http：//zennninnnetto-sos.org/
今後も妊娠して誰にも相談できず、悩み苦しみ窮地に立つ女性たちのために、官民一体となって母子の安全を守っていく活動を進めていきたい。




### 最近次のような事件が報道されました。

２０１６年１２月１５日（木）
岐阜県岐阜市の神社境内に赤ちゃんの遺体が入っている白いカバンが発見されました。
赤ちゃんは女児でへその緒がついたまま、衣服は身につけていなかったとのことです。
警察は事情を知っているとみられる母親を探しているが、１２月２４日現在まだ発見されていないとのこと。
岐阜市子ども支援課は「事情があったのだろうが、事前に相談してくれていれば」と話しているとのこと。

# 矢満田篤二氏　　社会貢献支援財団から表彰！

CAPNA 設立メンバーの１人で、元愛知県児童相談所児童福祉司の矢満田篤二さんが、愛知県に新生児養子縁組を定着させた功績により、このたび社会貢献支援財団から表彰を受けました。

愛知県児童相談所では３０余年で１７３組の赤ちゃん縁組が行われました。
予期しない妊娠に悩む女性、子どもを育てたいと願っているのに授からない夫婦、生まれてくる小さな命、全てにとって幸せな選択肢であり、矢満田さん曰く「三方よし」とのことです。

虐待死でいちばん多いのが「０歳０ヶ月０日」の赤ちゃんであることを考えれば、より多くのみなさんに知って欲しいと思います。

詳細を知りたい方は、光文社新書「赤ちゃん縁組」で虐待死をなくす～愛知方式がつないだ命～をお読みください。

写真は左から岩城弁護士（元 CAPNA 理事長）、矢満田さん、CAPNA 理事長萬屋さん、西三河児童・障害者相談センター柴田さんです。

## ◇　矢満田篤二さんからのコメント　◇

１１月２８日、東京・帝国ホテルの社会貢献表彰式場に、全国から５０余の個人、団体と共に、私も招かれて公益財団法人・社会貢献支援財団の安倍昭恵会長から、「あなたは昭和五十七年から児童福祉司として『生みの親に育ててもらえない子どもには育ての親が必要、すべての子どもに家庭の中で家族体験をさせること』を願い生みの親が育てられない赤ちゃんを乳児院には入れず、子どもが授からない不妊の夫婦に天使のような新生児を産院から直接委託する『愛知方式赤ちゃん縁組』を推進し、他県にも広がりを見せるなかで定年退職後も養親講座を開講するなど特別養子縁組の普及活動を続けられています」と、記された表彰状を授かりました。

もちろん、私一人のみでは無く、萬屋育子さん、柴田千香さんなど、愛知県の全児童相談所職員皆さまによる、３０年余の努力が顕彰されたことに感謝しております。



# 小児科の幕間（まくあい）から　～その１～

CAPNA　監事　高橋 昌久
こどもクリニック・パパ　理事

小児科を開業して１４年。診療時間は９：００から１３：００、１８：００から２０：００。日・水は完全休養、土曜日は半日のみ。休暇を年２０日さらにとるので、周囲からは休みすぎじゃないの？とよく言われる。

勤務医の時には３６時間連続労働が普通で、有給休暇なんて取れるはずもなく、年末年始、２週間病院の敷地を出なかったなんてことが多々。その反省から、一日の真ん中の１３：００から１８:００までには必ず休みがあり、週の最初と真ん中と最後にも休みがあり、GW と春、夏、冬には大好きな離島へ１週間ずついけるような診療体制にした。

そう、小児科診療の幕間をしっかり確保したのだが・・・。

## *乳児健診*

毎月第二木曜日の午後、２：００から健診が始まる。その少し前、スタッフが受付を始める。院長の出番はそこからおよそ３０分後。スタッフがそれまでにいろいろ確認をする。母子手帳をみて予防接種とそれまでの健診の確認、これからの予防接種の計画、今日の身長体重測定、これまでの成長曲線と精神運動発達の評価と確認。目の前の保護者の不安の聞き取り・・・。

スタッフが返せるものはその場で丁寧に説明をする。自分の言葉で、相手の目を見てしっかりと。聞きやすい、話しやすいと評判だ。医師のところへやってくるものはそれらトリアージのあと。実は、幕間にかなりのことが済んでいる。

そんなある日、健診で忘れ物をしたお母さんがいた。うちの案内にはこう書いてある。

> 乳児健診に持ってくるもの：母子手帳・乳児医療証・健康保険証・タオル・替えのおむつ・お薬手帳・体温計。

確かに、持ってくるものの中に我々は記載をしていない。そう、受付の段階で、乳児がまだ自宅にいたのだ。忘れたのではない、連れて来いと言われなかったのだと。

## *タクシー*

地元医師会の役を受けたら、タクシーチケットの束を渡された。

チケットというものが、そもそも束であるのを初めて知ったのだが、最近車の運転をほぼ卒業したのでこれはありがたい。もちろん、診療の幕間に市や県や近隣医師会との公務にのみ使えるのだが、三河地方の山間部は車がないと機動力は半減する。豊田から隣の新城市に行くのにも電車だと3時間！車だとすいすいの５０分。

ある日のこと、西三河の海のリゾート地で医師会の会議が行われることになった。最近は遠くて不便な所へは人があまりタクシーで行こうとしないのか、タクシーに乗っても運転手さん経路がわからない。

立派なナビシステムのようなものがフロントパネル中央に鎮座してみえるのだが、使い勝手が悪いのかお使いになろうとしない。無線で本社に聞く気配もない。それならばと、プロにはまことに失礼だがと提案してみたら、それでよいというので、後部座席から、私のスマホのグーグルマップ（無料で最初からインストールされている）で経路を確認、音声を大にして運転手さんとドライブとなった。実は、当日豊田からタクシーで向かった医師会の面々が、そろって同じようなことをしていた。グーグル恐るべし。